

## —特集〔日本医科大学先端医学研究所 Cutting Edge Research (1)〕—

## はじめに

福原 茂朋

先端医学研究所病態解析学部門

この度、日本医科大学医学会雑誌のゲストエディターを拝命し、先端医学研究所を紹介する特集を企画いたしました。先端医学研究所は、6つの研究部門からなる日本医科大学の附置研究所です。本特集は、先端医学研究所で実施されている最先端の医学研究を紹介することにより、学内外の臨床および基礎医学研究者との交流や共同研究を推進し、日本医科大学における医学研究の更なる発展を目的に企画しました。そのため本特集では、各研究部門の部門長より、研究室で推進している最新の研究および今後の研究の方向性について紹介していただきました。細胞生物学部門を主宰する岩井大学院教授より、本庶佑先生のノーベル生理学・医学賞受賞につながった免疫チェックポイント阻害剤開発の経緯とそれを発展させた免疫システムに関する研究について、遺伝子制御学部門を主宰する田中大学院教授からは、がん抑制遺伝子 p53 に着目したがん幹細胞発生メカニズムとそれを標的としたがん治

療法の開発について、これまでの研究の経緯と最新の研究成果をご紹介いただきました。生体機能制御学部門を主宰する本田大学院教授からは、がん早期診断、リスク層別化、精密医療に資するバイオマーカーの探索研究とその社会実装に向けた取り組みについて、また、タンパク質間相互作用学部門を主宰する浜窪教授からは、がんや感染症に対するタンパク質間相互作用に着目した革新的治療法の開発研究について解説いただきました。また、病態解析学部門を主宰する福原は、蛍光イメージング技術を駆使した独自の血管研究について紹介しました。本特集の最後では、田中研究所長より、先端医学研究所の変遷と研究所が目指すもの、研究所の使命についてご説明いただきました。本特集を通して、日本医科大学医学会の皆様へ先端医学研究所についてご理解いただき、共同研究などの交流が推進されることを期待いたします。